

公開・非公開の別

公開 部分公開

非公開

令和2年度 第2回浜松市障がい者自立支援協議会東エリア連絡会全体会議録

- 1 開催日時 令和2年11月4日（水） 午後1時30分から午後3時30分
- 2 開催場所 浜松市東区役所31・32・会議室
- 3 出席状況 ○出席委員 (敬称略)
障害者相談支援事業所ひがし：長谷川
児童発達支援センターさんぽみち：濱島
ウイズ半田：斯波
さぎの宮寮：高杉
包括支援センターさぎの宮：河合
浜松医科大学附属病院：豊田
知的障害者相談員・浜松手をつなぐ育成会：高林
民生委員児童委員：清水
社会福祉法人社会福祉協議会：富田
東区社会福祉課：鈴木、久野
オブザーバー 基幹相談支援センター：雨宮、松井
- 4 傍聴者 2人（一般：2人）
- 5 議事内容 (1) 当事者意見交換会の報告
(2) ネットワーク会議の報告
(3) 短期型課題検討部会について
(4) 意見交換・協議
- 6 会議録作成者 東区社会福祉課障害福祉グループ 久野加津夫
- 7 記録の方法 発言者の要点記録
録音の有無 無

8 会議記録

1 開 会

会の成立 （出席人数の報告）構成員の過半数出席

あいさつ・第1回浜松市障がい者自立支援協議会市全体会について報告

<報告：東区社会福祉課：鈴木課長>

9月8日に、第1回浜松市障がい者自立支援協議会市全体会が開催された。

「第6期浜松市障がい福祉実施計画」「第2期浜松市障がい児福祉実施計画」について、今月から来月までパブリックコメントをホームページで募集している。

市全体会の資料と会議録は市のホームページに掲載される予定。

傍聴者の承認

2 議 題（進行：浜松東障がい者相談支援センター：玉木）

（1）当事者意見交換会の報告

<説明：浜松市東障がい者相談支援センター：大軒>

「第1回当事者意見交換会会議録」をもとに説明。

東区内の障害者相談員に集ってもらって、各々所属の団体の活動について情報交換した。各団体とも、入会していない障害者のことが気になる、団体を維持してゆくうえで若い人の担い手がない、等の声が聞かれた。第2部では2グループに分かれてグループワーク形式で情報交換した。東区内の車いすで使えるトイレマップが欲しい、みをつくし特別支援学校の通学について困る人が出てくるのではないか、アルコールの会についてPRしてゆく必要が有る、等の話が出た。

<出席者としての感想：知的障害者相談員：高林>

他の相談員からは、初めて聞くような話が聞けた。

障害種別ごとに分けて、それぞれの話が聞けるといいなと感じた。

<質問：ウイズ半田：斯波>

グループワークで出された課題に対して、どういう答えが出ているか知りたい。

<回答：浜松市東障がい者相談支援センター：玉木>

時間的な制約上、今回はとりあえず意見を頂戴したところまでだった。

<知的障害者相談員：高林>

それぞれの課題をもとに今後の活動が始まる。

（2）ネットワーク会議の報告

<説明：浜松市東障がい者相談支援センター：玉木>

今年度はコロナウィルスの影響で、大人数での会議体が開催できないこともあり、ネットワーク会議に関しては、ユーチューブでのネット配信を検

討している。今年度の構成員と事務局のメンバーは、自己紹介と意気込みを撮影して、それを動画配信していこうと考えている。

また、今年度か来年度に研修会の開催も考えている。何か取り上げてもらいたいテーマは有るか？

<意見：障害者相談支援事業所ひがし：長谷川>

前回のグループワークでも出たことだが、社会資源の活用ができていない。あらためて世代別ツールにどんなものが有るか、よりつながりを持ちたい。

<意見：さんぼみち：濱島>

協議会の構成員が、それぞれ何をやっているか知りたい。ネット配信は、誰向けの配信なのか？一般向けだとしたら対応窓口や連絡先は？相談支援センター？

<意見：ウイズ半田：斯波>

どんな組織、制度ができるか、ほとんどの人が知らない。支援を必要としている人の所へつながっていないのが現状。デジタル社会でデジタルデバイスがますます出てくる。支援が必要な人へつなげてゆく手段も考えるべき。

<意見：さぎの宮寮：高杉>

サービスを必要としている人に対して、ネットワークを生かせる研修会になるといい。利用者さんが、生き生きと生活できるようになってゆくのがいい。

<意見：包括支援センターさぎの宮：河合>

若い人と高齢者が両方いる世帯にかかわるケアマネさんにとっては、障害の分野とつながりにくい。年齢で分断することなく、情報共有の場が持てるといい。実践を通じて行っていくことが必要。老障連携の場。

<意見：社会福祉協議会：富田>

ソーシャルワーカーをされている方々が、コロナ禍の地域支援でどんな取り組みをしているか、知る機会になればいい。

<意見：浜松医科大学附属病院：豊田>

今までどんな研修が有ったのか知りたい。

<意見：民生委員児童委員：清水>

民生委員も人によって、それぞれ温度差が有る。前回の全体会でも言ったが、障害について基本的な知識情報を持っている者が少ない。研修会で出た事例検討・事例研究を他の民生委員に広げてゆくのが自分の役目かと思っている。コロナの中、社会福祉に与える影響には、どんなものが有るのか、社会福祉施設でどんな課題が有るのか知りたい。

<意見：知的障害者相談員：高林>

当会でもコロナの中、今までと同じようには出来ていないが、じっとしているわけにはいかないなので、座談会やイベントを、縮小しながらもやって

いる。

<回答：浜松市東障がい者相談支援センター：玉木>

研修会については、各委員の意見を含めて企画を考えてゆきたい。

ネット配信については、前年度の構成員に対して限定配信してゆくつもり。

<質問：ウイズ半田：斯波>

他のエリアは、ネット配信をやっているのか？

<回答：浜松市東障がい者相談支援センター：玉木>

他のエリアではやっていない。他のエリアとも情報共有していきたい。

研修会に関連して1点告知する。来年2月2日午後、市協議会の研修会が予定されている。密を避けるため、あいホールを主会場として、各区役所ではZoomで参加できる。

また、昨年度まで行われた研修について、どんなものがあったかを紹介する。

「当事者部会」では、年金や成年後見人等の制度事例研究、グループホームなどの現場を見学したり、座談会を開いていた。

「人材育成部会」では、放課後等デイサービスを中心に事例検討した。学校の先生と相談支援、それぞれの現場の方に話してもらった。それぞれが抱えた問題・課題を出してもらった。

(3) 短期型課題検討部会について

<説明：浜松東障がい者相談支援センター：平野・三嶋>

東区内にある事業所と制度を一覧にした資料を提示。

地域診断してみて、課題を書面に落とし込んだもの。

<意見：包括支援センターさぎの宮：河合>

若年性認知症のつながり先に困る。本人のプライドもあって高齢者サービスにつながれない。高齢者施設でのメニューが物足りないと思っている。

その人たちをどうつなげてゆくか苦勞する。

<意見：さぎの宮寮：高杉>

当施設では、利用者の平均年齢が88歳。一番若くて68歳、一番高年齢が101歳。彼らが、同室になることも有り得る。そうすると世代間のギャップが出てくる。

<意見：ウイズ半田：斯波>

ウイズ半田では、上は70過ぎ、下は20代。

70前後の人では中途障害、若い人では知的と視覚の重複障害の人もある。年齢ギャップもあるが、「生産活動をしたい」というところは一緒なので、うまく混ぜ合わせてやれている。

<まとめ：浜松東障がい者相談支援センター：平野>

短期課題検討部会では、共生型をテーマにしたいが、いかがか？

→共生型をテーマにすることについて、構成員の承認を得られた。
それでは主要メンバーを選出したい。参加くださる方がいれば名乗りを上げてもらいたい。

<意見：浜松医科大学附属病院：豊田>

そういう課題なら当院としてもお手伝いできるかもしれない。参加したい。

<意見：障害者相談支援事業所ひがし：長谷川>

参加したい。

<まとめ：浜松東障がい者相談支援センター：平野>

主要メンバーについては、また後日相談させていただく。

<浜松市東障がい者相談支援センター：玉木>

ここで一旦休憩に入り、10分後に再開する。

14：40休憩

休憩 10分

14：50再開

3 意見交換・協議

<浜松東障がい者相談支援センター：平野>

東区内にある事業所と制度を一覧にした資料について、あらためて説明。一覧の、上から「健づくり課の支援 一般の方向け」と、その下の1歳半検診でピックアップされた「特定の方のみ受けられる支援」では、浜松市の制度を表示してある。その後「福祉サービス」の欄には、東区の事業所数を入れてある。東区内には、事業所が少なく、利用希望者は他区へ出ていかなければならないことが多い。精神科も数ヶ月先まで予約がいっぱい。「ケースと課題」として、「障害分野のヘルパーの不足」「養育能力の低い家庭に対する支援」「高齢障害者の居場所」等を挙げている。
これについて何か意見は？

<意見：障害者相談支援事業所ひがし：長谷川>

課題「情報伝達が不十分」という点では、情報伝達が不十分だけでなく、質の問題もある。また「養育能力の低い家庭に対する支援」に関連しては、妊娠期からの支援が必要だと考える。親に知的な問題があると、ファミリーコントロールができていなくて、子どもが4～5人いるうえ、生活困窮を伴う家庭が有る。定期検診にも行けないというケースも有る。外国人の家庭だと義務教育の概念も無い。

<意見：さんぼみち：濱島>

つぶれる私立幼稚園のある一方で、保育園の数は増えている。

1歳半検診の後、保育園に入った子どもの発達支援については、保育園で

見てもらうことになっているが、園の雰囲気や保育士によって質が違う。保育園の中でかなり埋もれている子どももいるかもしれない。公立の園には、発達の子がかなりいるようだ。

担当課が違い、予算編成も違う2つの施設で、各園への巡回支援もしているが、すべては廻りきれない。320園のうち、40%は廻った。支援の必要性を感じていない園もある。

<浜松東障がい者相談支援センター：平野>

問題が大き過ぎる。また相談したい。健康づくり課の協力も得て一緒に考えていかないといけない。

<意見：ウイズ半田：斯波>

課題「障害分野のヘルパーの不足」については、数年前話題にあげたが、うまくいっていない。

課題「精神疾患の方の歯科通院困難」については、障害専門の歯科医がいるので、歯科医師会に聞いてみては？

課題「外国籍の方（ブラジル人）の成年後見人申し立て困難」の件では、HICEの関係にブラジル人専門の弁護士がいる。浜松市は、意外にブラジル人支援が整っている。

課題「8050家庭への支援困難」については、当施設でも知的と視覚の重複障害の人がいて、結構大変。世間体を気にして自分で抱えこんでいる。

<社会福祉協議会：富田>

8050問題は、よく相談が入るケース。障害が有りそうだけど手帳を持っていなくて、親が亡くなり、子だけ残されると、キーになる人もいなくなってしまう。

<民生委員児童委員：清水>

8050問題で、自分が出会ったケースでは、一年以上寝たきりの娘（褥瘡ひどい）と80代の父親の家庭で、この夏、エアコンが壊れたまま過ごしており、あと数時間遅かったら、娘の命にかかわる状況だった。それでも父親としては、娘を充分面倒見ているつもりでいるらしい。生活能力が無く、ものを考える力がそもそも無い家庭だった。

もうひとつは、8050問題ではないが、高齢姉妹同居の家庭で、80過ぎの姉が癌で亡くなり、73歳の妹（障害2級）が残された。妹の収入は障害年金だけだが、生前、姉が天竜病院に勤めていたので、妹のために貯金をしていたと言いつ残している。姉には成年後見人がいた、とのことだが、一刻も早く妹の元へそのお金が入るように努力している。

<まとめ：浜松東障がい者相談支援センター：平野>

地域の生の声を聞きかせてもらった。それでは、短期型課題検討部会のテーマとしては、共生型として、乳幼児期の問題については、健康づくり課と意見交換させてもらい、支援者が部会化することでよいか？→了承された。

<告知：社会福祉協議会：富田>

毎年、ふれあい交流会を実施しているが、今年は多くの人を集められない。検討した結果、交流という形ではなく、PR動画を作って公開してゆくつもり。現在、動画撮影を進めている。

<告知：ウイズ半田：斯波>

当施設では増築したので、見に来てください。

<告知：浜松東障がい者相談支援センター：玉木>

第3回は3月に開催の予定。日時については、後日連絡する。

4 閉 会